

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「学校生活」「進路支援」「特別活動」の4領域で重点項目・課題を設定して教育活動に取り組んだ。4領域とも昨年度の反省・課題を踏まえるとともに、生徒の主体性や積極性のさらなる向上を目指しながら、授業や部活動、各種行事を行った。各重点課題の評価等の概要は以下のとおりである。

(1) 学習活動

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、多くの教員がICTを効果的に活用し、授業を工夫し、実践した。また、互見授業を積極的に行い、教科部会を中心に授業の成果や課題を共有し、授業改善に努めた。生徒の家庭でのICTの利用状況については、週3回以上利用している生徒の割合は5割程度であった。教育用クラウドサービスは連絡機能としての役割は充分果たしている。生徒が授業内容の理解を深めるためのツールとしてのタブレットの利活用について、継続して研究・実践に繰り返し取り組んでいく必要がある。商業科では、目標値を下回ったものの多くの生徒が自らの目標を持ち、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでおり、学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。授業では、個々の生徒の理解度の相違にも対応できるよう、常に効果的な指導を模索し改善を行っている。

(2) 学校生活

スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見受けられる。スマートフォンの長時間使用を控え、ネット依存にならない方策を生徒自治委員会が中心となって行った。学校ネットルール4箇条の一つに「マイルール（自分はこれを絶対を守る）」を取り入れた。生徒各自が決めた「マイルール」記入した紙をツリー型にして貼り付け、生徒玄関に掲示し、可視化することで、ネットルールやマナーを「自分事」として捉える意識の高揚を図り、ルールの遵守につなげている。生活習慣を整え、心身の健康について主体的に判断する態度の育成を図るため、季節に応じて「保健だより」等の情報紙の発行を行った。生徒保健委員会では「質のよい睡眠」について調査・研究を行い、発表をとおして専門家から助言を得ることができた。

(3) 進路支援

1・2年生に対しては、自らの進路目標を実現するため、進路支援プログラムの事前・事後学習を充実させ、進路実現のために基礎学力の大切さを認識させるとともに、オープンキャンパスや学校見学会、校外での研修会などへの積極的な参加を促した。特に、2年生が熱心にオープンキャンパス等に参加している。3年生に対しては、教員が積極的に進路の情報収集と情報共有を行い、学習指導や進路指導に取り組んだ結果、進路支援の満足度に対して全体として「ほぼ達成」できた。

(4) 特別活動

学校行事や特別活動に全校生徒が意欲的に取り組み、集団活動や体験活動を通して、豊かな学校生活を築きながら連帯意識を育むことができた。体育大会では、生徒会が中心となり種目や実施方法を工夫したことで、学年を越えて様々な場面で生徒の自主的な活動を見ることができた。学校祭では、実施方法を工夫するなどし、合唱コンクールも開催した。部活動では、男子ホッケー部が全国高校総体準優勝、全国選抜大会3位、女子ホッケー部が全国高校総体、全国選抜大会とも3位、新聞部が全国高総文祭に9年連続で出場するなど、多くの部が成果をあげた。また、各部が実態に応じた目標を設定し、運動部、文化部ともに効率的な活動を実践することができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 生徒の学びを補償するため、タブレット等のICT機器や教育用クラウドサービスを利用して、「主体的・対話的で深い学び」を推進する授業づくりをさらに進めていくとともに、生徒のタブレット使用のモラルを高めていく必要がある。商業科については、今後も粘り強く指導を行い、論理的な思考能力を育成し、上級の資格取得に向かってチャレンジしようとする意欲を持たせる。
- (2) SNSの利用に関しては、身近な事例を提示し、生活習慣の改善や自己管理について注意喚起および広報活動をするとともに、生徒自らが考え、注意し合うことで生徒主体の活動を増やし、規範意識をさらに高めていく。
- (3) 多様な進路希望や大学等入試方法の多様化に対応するため、進路意識を醸成し進路目標の設定に活かすことができる行事や情報提供に努めるとともに、よりよい情報・学習環境の提供など進路目標の達成に活かせるような取り組みを継続していく。
- (4) 学校行事の実施方法について改めて検討を行い、生徒がより主体的に関わる活動を行っていく。また、ボランティアや地域の活動に対しても主体的に参加できるよう工夫する必要がある。部活動においては、現状を明確に分析し、体力・技術・精神面の充実を図る方法を検討し、取り組んでいく。

8 学校アクションプラン

令和6年度 石動高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動（生徒の学習意欲の喚起と基礎学力の伸長及びICT活用）	
重点課題	<p>①②生徒の探究心を喚起する「主体的・対話的で深い学び」を実践し、さらには家庭における学習や探究を促進するために、ICT機器や教育用クラウドサービス等を積極的に利用し、生徒の学びに向かう意欲を高める。</p> <p>③検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力を育成する。</p>	
現 状	<p>①②生徒一人につき1台が配備されたタブレットと教育用クラウドサービスの活用により、すべての生徒がこれらを使いながら授業に向かう環境が整っている。よって、教員にはこれまで以上にこれらの利用を通じて、授業において、生徒対生徒、教師対生徒の「主体的・対話的で深い学び」を重視した改善を図り、家庭においても積極的にICT教材による学習や探究活動に取り組ませることが必要である。</p> <p>③商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にも繋がっている。</p>	
達成目標	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業において、タブレットや教育用クラウドサービスを活用した教員の割合</p> <p>②家庭学習でタブレット及び教育用クラウドサービスを週3回程度利用した生徒の割合</p>	<p>③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数</p> <p>(1)簿記 (2)ビジネス文書 (3)ビジネス情報 (4)プログラミング (5)商業経済 (6)珠算 (7)電卓 (8)英語 (9)財務諸表/財務会計/管理会計</p>
	<p>① 80% ② 60%</p>	<p>15人以上（卒業年度）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現について、タブレット等を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 生徒に効率よく家庭学習を行うアイテムとしてタブレットや教育用クラウドサービスの積極的な利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝や放課後の補習授業を実施する。 商業関連部活動を充実させる。 3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。
達成度	<p>① 73%（24名/33名）</p> <p>② 1学期 51% 2学期 51%</p>	<p>③全商主催検定1級3種目以上合格者 9名（昨年同時期17名）</p> <p>5種目0名、4種目3名、3種目6名</p>
具体的な取組状況	<p>① 互見授業がマンネリ化してきており、刺激になっていない実態があり、改善につながっていない。来年度は、その実施方法を改めて考えてみたい。</p> <p>② 授業でのタブレット利用については、英語や地歴でよく利用されているようだが、国語と数学では少なかったとする回答が多かったことから、これらの教科では家庭学習でのタブレット利用の働きかけも少ないと考えられる。</p>	<p>商業科の教員が連絡を密にし、個々の生徒の弱点が克服できるように検定取得に向けて、各授業で模擬問題や過去問題に取り組むことに加えて、放課後等の補習や質問教室を実施した。</p>
評 価	<p>① B ② B</p>	<p>③ D</p>
学校関係者の意見	<p>教える側のICTの活用能力を高めれば、さらに効果的な授業となるのではないかと。</p>	<p>ビジネス文書の作成では、生成AIサービスを利用した授業も展開したらどうか。</p>
次年度へ向けての課題	<p>観点別評価を活かすためにも「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める必要がある。ICTの活用のためではなく、生徒のための授業改善となるよう方策を講じていきたい。</p>	<p>現2年生は現在3種目合格2名(昨年0名)・2種目合格1名(昨年6名)であり、合格に向けて計画を立て取り组ませたい。</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が自分のスマホを持っており、自他の個人情報を安易にSNSに掲載したり、ネットルール・マナーを守らないことでトラブルが起きている。 ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は近年少なく、令和2年度3名、令和3年度1名、令和4年度、5年度は0名だった。 スマホ等を平日3時間以上使用している生徒は約50%にもなる。特にSNSと動画はほとんどの生徒が利用し、ゲームは約70%である。また、夜12時以降にスマホ等を使用している生徒が約20%おり、スマホ使用に起因する問題点のトップである「学習に悪影響、睡眠不足」（14.2%）につながっている。 令和5年度からネットルール4箇条を共通ルール3とマイルール1とした。マイルールについてはネットルールツリーを作成し、可視化することで意識の高揚を図った。 生活リズムの乱れ等不規則な生活習慣により不調を訴える生徒が比較的多いため、基本的な生活習慣の確立ができるよう、心身の健康について主体的に考え、判断し、行動する態度の育成が必要であると考え。
達成目標	<p>①学校ネットルール4箇条を遵守できる生徒の割合 80%以上</p> <p>②生活習慣・心と体の健康にかかわる広報活動を行う（隔月に1回以上）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> スマホ使用に関するアンケートで使用実態を把握し、イレブンセブン運動やネットルール4箇条の遵守を積極的に推進することで、長時間の使用を控え、ネット依存にならないようにする。 情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、スマホ安全教室（1学年対象）の実施。 全体集会や授業、HR、インフォメーションコーナーを活用し、実際に起きている事件や事故の情報を伝え、被害者にも加害者にもならないために必要なことを考えさせる。 保護者にも協力を依頼し、家庭でスマホの使用について話し合う機会を持ってもらう。 生徒が問題意識をもって主体的に活動できるよう、校内の環境を整える。 保健室周辺のホワイトボードを広報活動に活用する。 生徒保健委員会で生活習慣について今の自分たちに必要なことを話し合い、調査・研究を行う。
達 成 度	<p>① 学校ネットルール4箇条を遵守できた生徒の割合 83.2%</p> <p>② 保健だより等の情報紙の発行回数 7回（1学期2回、2学期3回、3学期2回）</p>
具体的な取組状況	<p>①昨年度自治委員会で考案した「マイルール〔自分はこれを絶対に守る〕」案を継続し、今年も4箇条は共通ルール3とマイルール1とすることを全校生徒に周知して取り組んだ。生徒各自がマイルールを用紙に記入し、それを使って自治委員が学年ごとに4箇条を表現した「ネットルールツリー」を作成し、生徒玄関に掲示した。ルールを可視化し、毎日目にすることで「自分事」と捉える意識の高揚を図った。結果は昨年度の78.7%を上回ることができた。</p> <p>②保健だよりやホワイトボード等の掲示物を通して、健康診断の日程とその対策、感染症や熱中症予防、ストレス解消法等のメンタルに関することなど、季節に合わせて心身の健康に関する情報を発信し、生徒の自己啓発を促した。また、生徒保健員会では昨年度に引き続き「質のよい睡眠」について取り上げて調査・研究を行い、学校保健委員会での発表を通じて、専門家から様々な助言を得ることができた。</p>
評 価	<p>① A</p> <p>② A</p>
学校関係者の意見	生徒の心身の不調について、SCや巡回指導員による教育相談を利用することで、心の問題を解決できた生徒がいることは良いことであり、継続して早期のケアやサポートを行ってほしい。
次年度へ向けての課題	<p>①・SNSの利用について、「ネット・スマホ安全教室」の開催や身近で起きている事例紹介を通して、ネットの危険性や正しい使用方法について年間を通して啓発を続け、規範意識の向上を図りたい。</p> <p>・1年生のネットパトロールからの報告が1件あった。特に1年生はスマホ・ネットに関する知識や危険性の認識が不十分な生徒が少なくない。早期対応を図り、ネットトラブルの未然防止を図りたい。</p> <p>②・生活習慣に関わる広報活動について、継続して行い、心身の健康について啓発し、生徒がより主体的に毎日の生活習慣を整え、自分で健康管理を行おうとする意識づけを図る。</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）															
重点課題	進路意識の向上と生徒への進路支援の充実															
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のためには、早期に目標を設定し、それに向けて学習を積み重ねることが重要であるが、目標ははっきりと決まらないまま3年次を迎える生徒が多い。生徒たちが何とか少しでも早く進路目標を見つけるための手がかりとして、進路講演会やガイダンスなどを校内でも実施し、進路を考えるきっかけ作りを進めている。その上で、オープンキャンパスや見学会などは、生徒の能動的な活動として、進路意識を高める大きな役割を果たすものであると考えている。 ・年内入試を大きな割合を占める本校では、各生徒の志望に応じたサポートが不可欠となっている。さらに、一般入試に挑戦する生徒が、最大限の力を発揮できるように環境を整えていく必要がある。 															
達成目標	<p>1・2年生： オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会などへの参加回数 年1回以上</p> <p>3年： 進路支援の満足度 4段階評価による3以上が90%以上</p>															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや見学会実施の情報提供はもちろん、オープンキャンパスの参加方法や参加の際に大切なことなどをわかりやすく生徒に伝える。 ・進路志望に添った個別の声掛けなどを積極的に行う。 ・オープンキャンパス等に参加した際のレポートを、休業中の課題にするなどして、生徒に働きかけを行う。 ・生徒一人ひとりがどのような支援を必要としているのかを個別面談で丁寧に聞き取り、一人ひとりに指導が届くように、3学年担当者だけでなく、学校全体で進路支援のサポートを行う。 ・進路支援の体制を常に見直し、職員間の情報共有を大切にする。 															
達成度	<p>① 1・2年生：オープンキャンパス等への参加回数（WEB 実施を含む）</p> <p>1・2学年合計 1.26回/年 （1学年 0.82回/年、2学年 1.72回/年）</p> <p>②3年生：進路支援の満足度</p> <table border="1"> <tr> <td>評価3以上</td> <td>進路実現のサポート</td> <td>99.4%</td> <td>学力を伸ばす努力</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>面談・個別指導の実施</td> <td>96.2%</td> <td>進路情報の提供</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学習しやすい環境</td> <td>89.1%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>5項目のうち4項目で、評価3以上が90%以上</p>	評価3以上	進路実現のサポート	99.4%	学力を伸ばす努力	98.1%		面談・個別指導の実施	96.2%	進路情報の提供	92.3%		学習しやすい環境	89.1%		
評価3以上	進路実現のサポート	99.4%	学力を伸ばす努力	98.1%												
	面談・個別指導の実施	96.2%	進路情報の提供	92.3%												
	学習しやすい環境	89.1%														
具体的な取組状況	<p>①前年の数字を大きく上回り、目標の年1回を達成することができた。特に、2学年の参加回数が1.72回となっており、かなり熱心にオープンキャンパスなどに参加している状況がうかがえる。学年ごとに、オープンキャンパスに関する研修会を開いたり、長期休業の課題としてレポートを課すなどの働きかけがあったことも結果を後押ししたと考えられる。進路講話などでもオープンキャンパスを話題に上げてくださることも多く、2年生では4回以上参加したと答えた生徒が13人いた。複数回参加した生徒は、その理由を、オープンキャンパスで学校それぞれの雰囲気を知り、志望校を決めるためと答えていた。</p> <p>②進路支援のアンケートを見ると、5項目のうち4項目で、「よくあてはまる」あるいは「あてはまる」と答えた生徒が90%を超える結果となった。特に、「先生たちは、生徒の進路実現のためにサポートしている」と「先生たちは、生徒の学力を伸ばす努力をしている」の項目については、かなり高い評価となった。進路指導はもちろん、各先生方の日々の学習指導の積み重ねが評価につながっており、丁寧な補充プリントの作成やタブレットを利用した学習を積極的に取り入れるなど、従来のやり方と新しいやり方、それぞれの良さを生かした取り組みを提供することで生徒を支援することができたのではないかとと思われる。入試が多様化する中でも、面談を土台にして、学校全体で進路支援体制を整えるよう取り組んだ。</p>															
評 価	<p>① A</p> <p>② B</p>															
学校関係者の意見	<p>進路を決定した3年生や卒業生から、直接進路に関する体験談を聞くことができる交流会は継続してほしい。オープンキャンパスについて、国内だけではなく、海外の学校にも目を向けるようなはたらきかけをするとよい。</p>															
次年度へ向けての課題	<p>1、2年生の、オープンキャンパス参加の目標値は達成できたが、自ら行動し進路を決めていこうとする生徒と、全く自分事としてとらえられない生徒の差が、年々大きくなる傾向が見られることが大きな課題である。その意識の違いは、進路に関することだけではなく、学習、特別活動など学校生活の様々なところにつながっていると考えられる。いかに自分事として一歩を踏み出させる働きかけができるかが、進路のみならず、生徒の充実した学校生活にとって重要であると思われる。3年生の進路支援については、2年前に、学習しやすい環境作りの一つの手立てとして、学習室の整備を行った。しかし、いまだに一度も訪れたことがなく、利用してみたいが敷居が高いと感じている生徒が見られた。どの生徒も利用しやすくなるよう、自主学习以外でも学習室を使用する機会を作り、学習室を近い存在にしていこうと始めていきたい。</p>															

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動の取り組みを通して主体性や積極性を育成する。
重点課題	特別活動へ主体的に参加し積極的に関与できるよう活動内容を工夫する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育大会や学校祭をはじめとする特別活動では生徒が意欲的に取り組む様子が見られ、集団活動や体験的な活動を通して豊かな学校生活を築くとともに自主性や連帯意識を育てている。 ・ 部活動は運動部 13、文化部 10 あり、部活動加入率は運動部約 54%、文化部約 30%、全体で約 84%と多くの生徒が部活動に参加している。 ・ 地域イベントや子ども食堂等の活動に、のべ約 90 名が参加し、ボランティアへの積極的な意識が育まれている。
達成目標	<p>① 学校行事（体育大会、学校祭）に対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上</p> <p>② 部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 5段階評価による4以上が70%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動や学校行事への生徒参画の機会を増やすとともに、生徒の社会性や指導力の向上を図れるよう運営や内容を改善し、多くの生徒が充実感を持って活動できるように工夫する。 ・ 全体計画や活動内容等について顧問と部員が情報共有しながら、個人や集団の実態に応じて具体的目標を設定し、活動を行う。 ・ 学校行事や高体連、高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえて以降の活動内容を検討・改善する。
達成度	<p>①学校行事（体育大会）に対する充実度</p> <p>体育大会 ①・②の評価 97.9% ①楽しかった 77.0% ②やや楽しかった 20.9%</p> <p>③やや楽しくなかった 1.9% ④楽しくなかった 0.2%</p> <p>学校祭 ①・②の評価 98.0% ①楽しかった 75.2% ②やや楽しかった 22.8%</p> <p>③やや楽しくなかった 1.2% ④楽しくなかった 0.8%</p> <p>②部活動についてのアンケート結果（1・2年生、3年生の順に記載）</p> <p>運動部評価4以上 活動の充実度（74.5%、91.2%） 活動時間の満足度（84.4%、89.9%）</p> <p>大会結果の満足度（39.0%、67.1%）</p> <p>文化部 評価4以上 活動の充実度（75.6%、82.9%） 活動時間の満足度（90.2%、100.0%）</p> <p>大会結果の満足度（84.1%、88.6%）</p> <p>活動の充実度は全体で79.5%であった。</p>
具体的な取組状況	<p>①学校行事</p> <p>昨年度、生徒がより活動の主役となれるよう体育大会の運営を見直し、今年度も継続した。生徒会をはじめ多くの生徒が主体的に活動に参加した。体育科との連携を深め、よりスムーズに運営できた。生徒会以外の生徒にも行事の運営体験を増やそうと、これまで全学年で開催していた球技大会を学年開催に移行した。より多くの生徒に自主性を高める機会を提供することで、充実感を得るだけでなく、生徒が主体的に活動に参加する態度を育み、将来の社会参画につながることを期待している。</p> <p>②部活動</p> <p>全国インターハイ準優勝(ホッケー男子)同3位(ホッケー女子)、一年生大会優勝、全国選手権富山大会ベスト8(野球)、北信越大会出場(男子ソフトテニス、陸上競技、卓球、水泳)、中部日本コンクール県大会金賞(吹奏楽)、県青少年美術展入選(美術、書道)、全国高総文祭出場・入賞(新聞)など昨年に続き運動部文化部ともに優秀な成果を上げた。部活動の地域移行等により部活動を経験しない生徒も入学する中、部活動の所属率は全校生徒の85.5%と高く、学校生活を充実させたいと意欲的に活動に取り組む様子が見られる。</p>
評 価	<p>① A</p> <p>② B</p>
学校関係者の意見	地域のボランティア活動に参加することで、地域の人との交流によりコミュニケーション能力が向上したり、社会貢献を実感できたりと、学ぶことが多い。部活動に参加していない生徒も増えつつあり、ボランティア活動に参加する機会を増やしていけばよい。
次年度へ向けての課題	<p>学校行事の充実について、体育大会や学校祭などの学校行事だけでなく、ボランティアや地域の活動にも主体的に参加できるよう工夫するとともに、生徒が参加した活動内容を発表や表現できる機会の充実を図りたい。しかし、校外での活動によって授業や行事に支障が出ないよう行事の精選も必要である。</p> <p>部活動は、体力・技術の向上、精神面の充実、社会性や人間関係の醸成を図るために有益な活動である。成績の向上のほか、生徒が運営に参画する機会を増やすなど充実感を得ることで、内面の成長と活動の活発化につながると思われる。様々な場面で積極的に地域と連携し、課題に取り組むたい。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)